「大橋小教育目標具現化の試み」～組織をとおした活動～

大橋小学校　八木一夫
尾花政治

1. はじめに

本校は開校２年目の学校である。開校以来，すべての教育活動の基盤を子ども第一主義に置いて子どもを前面に出し，長期的な展望に立っての教育計画をたて，地道な教育実践を積み重ねていくことを大切にしてきている。

そして，「みんなで創る大橋小」を合言葉に，教師も子どもも小さな創意を出し合い，寄せ合いながら「大橋小だからできる」というユニークな教育活動を編み出す工夫をしてきた。

この小さな創意を結集して，ひとつ　ひとつの教育活動に生かすためには，内容・方法を具体的に設定し，計画的な教育をしていくための組織作りと，実践のためのチーム作りが必要である。

そこで，新設校であるという利点を生かして，本校教育目標達成のために生きて働く，機能的な組織作りをし，教師も子どもも，生き生きした活気に満ち溢れた教育実践を続けてきた。

2. 本校の子ども像（教育目標）と学校像

(1) 大橋小の子ども像

本校では次ののぞましい子ども像をそのまま教育目標とした。

- 心身が健康で　たくましい子　（体力・意志力）
- 心が豊かで　あたたかみのある子　（情操）
- よく考え，ほん気で勉強する子　（知性・探究心）
- きまりを守り，仲よく協力する子　（友情・連帯）
- 責任を重んじ，心をこめて働く子　（勤労・実践力）

(2) 大橋小の学校像

- 美しく整った，落ち着きのある学校
- はつらつとして，活気に満ちた学校
- 子どもと教師が，共に学ぶ学校
- 心のとけ合った，楽しい学校
- 地域社会から，親しまれる学校

3. 実践の場としての「大橋小の四活動」

「子ども像」，「学校像」は，ひとつの理想像である。この理想像を基盤に据えて具体的な教育活動の場として，本校教育目標に迫るべき四つの活動の場を設定した。

(1) 体力・気力を育てる活動

運動がほんとうに楽しいという思いで，いろいろな遊びや運動に自ら立ち向うことをねらう。即ち，自分たちの体を動かすことの楽しさをわからせることである。

(2) 心を育てる活動

感情を適切に発散させながら，情緒の安定をはかり，情操的な精神作用の深化，拡充をはかる。よいことをする快感，自然の不思議さ，美への感動，人の心の温さを感じとり，感謝の心を持って他に尽すなど，いろいろ体得しながら自己をより深くみつめる心を開かせていく。

(3) 働き，奉仕する活動

働くことについて，体を通して実際に体験させる。しかも，しっかりとした目的と計画によって経験させることにより，させられる労働から，する勤労へと導き，その意義や喜び，尊さを体得させる。

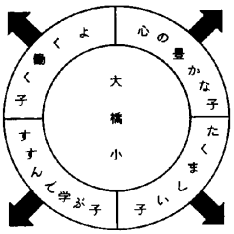
(4) 知性を身につける活動

学習は，その意欲の喚起からはじまる。授業を詰め込みで機械的に進行させるのではなく，価値ある教材を適確にとりあげて，子どもが学習課題をしっかりつかむ，そして実際に自分の目で手足で，体で，頭で調べたり，確めたりして学習の仕方を学ばせる。本校ではこれを「する授業」と呼んでいる。

これらの四つの活動は独立したものでなく，有機的に統合されてはじめてその目的を達するものである。

そして，活動の実践の場は，学級・学年経営の場や，三領域の教育活動の場や，大橋の時間（学校裁量の時間）の場等すべての教育活動を通して行われるものである。しかも大事なことは，「いまやっていることは主として四つの活動のねらいのどれに帰着するものであるか」を常に念頭に置いて実践を積み重ねていくことである。

この四つの活動を図式化すると次のようになる。



働くよろこびを育てる活動

- 清掃<校舎内外>
- 学級花だん<土つくり・施肥>
- 飼育<うさぎ・小鳥・きんぎょ・こん虫>
  4.5年　じゃがいも・さつま
- ミニ農園<5　年　いね
  6　年　落花生・とうもろこし
- グランド等のクリーン活動<月1回>
- 秋の感謝祭<さつまいも>
- ひまわりつくり<1～3年一鉢栽培>
- 各種の係活動
- 緑の機動隊

自ら学ぶ意欲を育てる活動

- 「する授業」
- つかむ学習
- しらべる学習
- 確かめる学習
- ひろげる学習
- 地域で学ぶ<グランド・県立図書館・市民体育館等>
- 算数計算ドリル<毎週水曜日>
- 国語漢字ドリル<毎週水曜日>

豊かな心情・連帯感を育てる活動

- 学級会<おたのしみ・たんじょう会
- 5年生足尾宿泊学習
- 演劇・映画鑑賞・音楽教室
- 学芸会・朝の音楽集会
- たなばた集会・お正月集会
- 卒業生を送る会・送別球技会
- 共遊<毎週水曜日>
- 読書
- よい子の像募金・よい子の表彰

体力意志力を育てる活動

- 運動会，小運動会，朝の体操集会
- 水泳<泳げない子・選手の特訓>
- 部活動<陸上・体操・サッカー>
- 陸上記録会<グランド>
- 水泳記録会
- なわとび大会，持久走
- 朝の交通指導<毎日一声指導>
- けが防止・なんでも食べる指導

4. 大橋小教育目標具現のための組織づくり

(1) 組織作りとは，人と仕事との組み合わせであり，望ましいかかわりあいである。単に形式的，機械的に人を配すべきものではない。

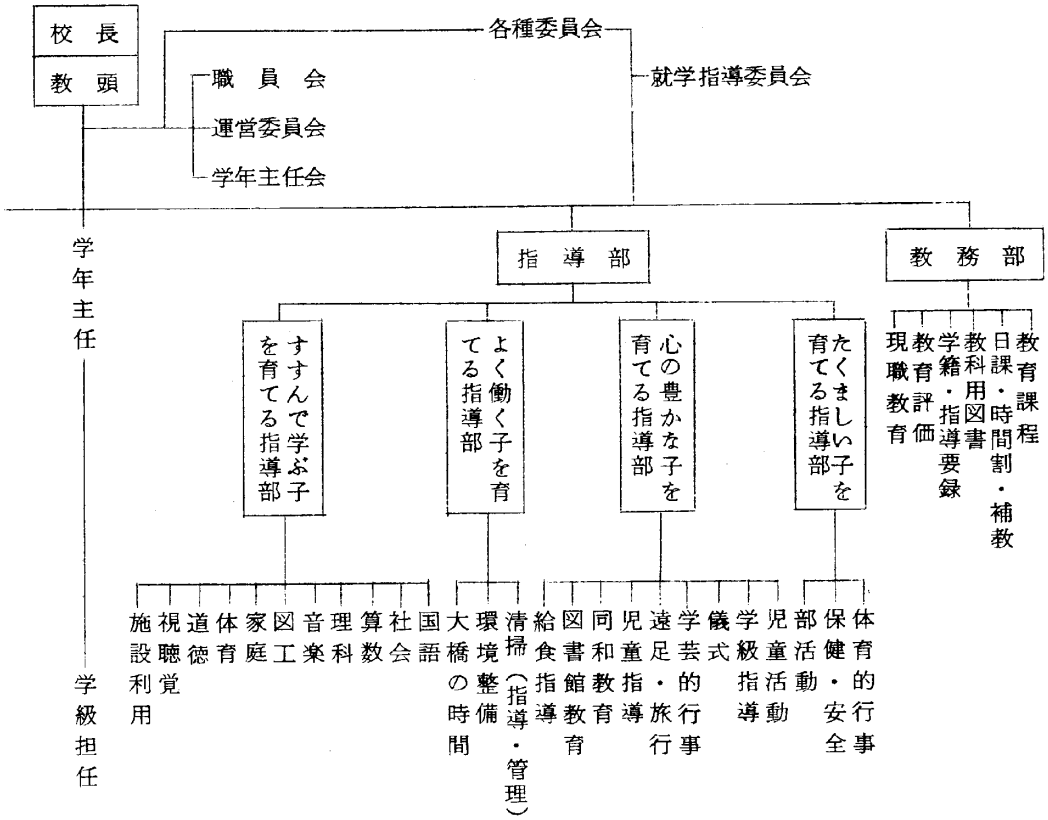
(2) つまり，学校教育目標の実現を前提とした意図的，計画的に教育を推進するための組織でなければならない。即ち教育目標をいかに具現化するかを前提とした一連の作業である。

(3) しかも，組織作りの最も大切なことは教職員の経営参加ということであり，これに参加した教職員をお互い認め合い，喜び合い，反省し合い，更に次のステップへ力強く踏み出す意欲を常に喚起することを考えなければならない。

(4) そこで，５６年度は明治以来の，どこの学校でも続けてきた校務分掌組織を破り，発想を180度転換して，本校の五つの教育目標をそれぞれ具現化させるために直接結びつくような，いわゆる○○推進部を大きく，四つ組織した。このプロジェクトチームは，下位集団（教職員）の発想，創意をできるだけ生かそうとしたものである。そして，明治以来の校務分掌組織では点から線へ，線から面へと連動しにくかった弊害を改善しようという試みである。

昭和５６年度　校務分掌（一部）

足利市立大橋小学校



このプロジェクトチームの編成上の約束として，二つに大別し，「すすんで学ぶ子を育てる指導部」は全員，他の三つのチームについては，どれか一つのチームのみに所属するということにした。

このような組織で教育活動を推進していくと

(1) まず，それぞれのプロジェクリチームで，自分の創意や意見が思い切って出せる。

(2) しかも，それが実践化されることで，教職員の貢献度が自他共に認め合える。

(3) さらに，学校経営の近代化でねらっている，権限の内部委譲ということが民主的，合理的にはかれるということにもなる。

(4) 教職員からみれば，経営の一部を「おれたちに任されているのだ」という責任感，使命感，モラールの向上にもつながるものである。

実践して1年有余になるので運営上幾つかの問題点もある。しかし，教職員自身が燃え，教育へのエネルギーを持っている。このエネルギーが直接子どもへの教育活動に連動する。

5. 実践例

初めに，プロジェクトチームの構成と主な活動内容等について概略を説明する。

教職員の創意や各学年の意向を反映させ，みんなで実践していく基盤づくりをしていくために，各学年または低・中・高学年（特殊を含む）ブロックから必ず1名は参加するようにし，6～7名で編成した。主な活動内容は，

- ５６年度の大橋小学校教育目標具現のための実践事項の設定
- 具体策達成のための各実践事項の細案作成
- 実施に当たっての推進の核

である。計画はプロジェクトチームで作成し，実施は「みんなで創る大橋小」の実現を目指して全教職員協力一致して努力した。

実施に当たっては，全教職員の共通理解をはかることが重要である。そこで，本校では各学期における実施事項は，各学期の始業式の日に計画細案を全部提示するようにした。こうすることによって，主な行事の見通しも立ち，学級・学年での体制づくりがゆとりをもってできるようになった。

また，毎月1回プロジェクト会議をもち，学期初めに提示された行事の中から，その月に予定されている行事の配慮事項について話し合い，実施に当たってのムダやムリがないように努めた。

こうした実践を重ねることによって，本校の教育目標と諸行事や諸実践事項とのつながりが明確になり，やらされている活動から自らする活動へと意識が変わってきた。そして，本校の教育目標と四活動とのかかわり合いが一連のものとして受け止められ，実践に際して，全校挙げて取り組むようになった。

次に，５６年度の大橋小学校教育目標具現のための実践事項設定について，心の豊かな子を育てるプロジェクトを例に述べてみる。これらの実践事項は，年度末の１～３月にもたれたプロジェクト会議において，十分な討議と協議を重ねながら，次のように設定していった。

A 豊かな心情・連帯感を育てる活動

(1) 学 級 会

低学年においては，ひとりひとりが自分の思っていることが言えるように，「おたのしみ会」や「おたんじょう会」など「楽しかった」と言える学級集会活動を行う。

高学年になるに従って，話し合い活動や係活動を増やして自主性を育てて行く。

(2) 5年足尾宿泊学習

集団の生活に耐える。ものの有り余る生活から窮乏の生活をする。そして，学校内での活動では経験できない登山，焼物作り，キャンプファイヤー，副食のない生活などをさせる。

(3) 演劇教室，映画観賞，音楽教室

ア 演劇教室

日頃映像を通してのみ，見ているものに対して，生の演劇にふれさせて，より深い芸術性を子どもの目で，心で鑑賞させる。

(4) 学芸会，朝の音楽集会

ア 朝の音楽集会

さわやかな歌声で始まり，和やかな歌声で終わるようにする。

短い時間に全校またはブロックの子どもの心をひとつにするというねらいのもとに，隔週金曜日の朝の集会活動の時間に，低・中・高学年ブロックに分かれて行う。

4月の歌，5月の歌……を決め，各ブロック内で係を分担し合って行う。

(5) たなばた集会，お正月集会

ア たなばた集会

日本古来から伝わっている民族行事を大切にし，かつ，体をとおして学ばせるという意味で，低学年を主体にして行う。

(6) 卒業式，卒業生を送る会，送別球技会

ア 卒 業 式

基本計画に従い，全職員が分担して計画細案を作成し，卒業式にいたるまでの仕事を行う。

(7) 共 遊

望ましい児童指導を考えると孤立児，周辺児などの対応がなかなかできない。さらに，子どもがあまりにも遊びを知らない。そこで，水曜日の清掃時間を割愛して，クラスの子どもと担任が学年相応の遊びを工夫して実施する。

遊び場所は，校庭（3区分），体育館，総合グランド，有楽公園とし，ローテーションを組んで，それぞれの場所で遊べるようにする。

(8) 読 書

映像文化も大切であるが，文字による文化…童話，物語など…にふれさせて，子どもに夢と想像性を培うことを目的にしている。校内の図書館のみでなく，特に長期休業中には県立図書館の利用を奨励する。

(9) よい子の表彰

子どもをいつも同一線上でみがちである。学級の中では目立たないが自分の足で立とうとしている子がいる。その子たちを見逃さないように学級担任は，2～3名の子を「よい子の表彰」

ノートに記録し，毎月1回申請し，校長室において校長より表彰を受ける。

(10) よい子の像募金

本校のアイドル・シンボルを作るために，子どもからどんな像が欲しいか作品を募集し，専門家に制作を依頼することにしている。そのために，月1回　お小遣いを節約して募金している。

以上概略を述べたが，他のプロジェクトチームにおいても，「体力意志力を育てる活動」「働くよろこびを育てる活動」「自ら学ぶ意欲を育てる活動」での実践事項を設定している。プロジェクトチームにより設定された実践事項は，3月の運営委員会において討議され，さらに職員会を経て4月の始業日までに一切の計画は完了するようにしている。

B　卒業式にいたるまでの実践例

(1) 卒業式についての基本的な考え

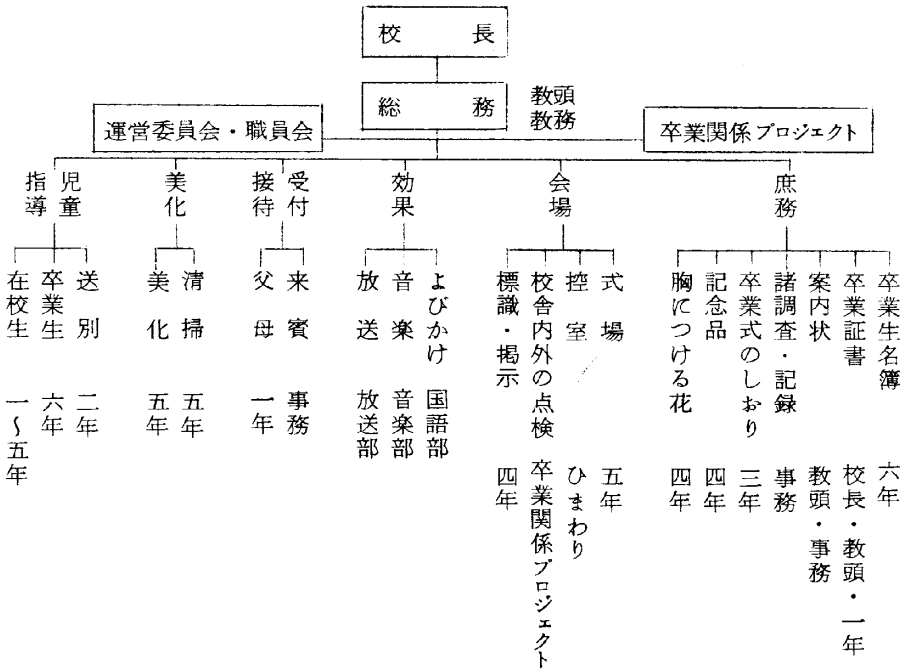
ア　卒業式は，学校にとって最大の行事である。子どもにとっては，6年間の最後の決定的瞬間ともいえるし，また，心のカメラに激写され生涯心に残るものである。

イ　6年生の担任は，卒業式の日を最後に大橋小での教育活動は終止符を打たなければならない宿命を持っている。従って，担任として「この子たちにしてやりたい」という発想を，全職員が最優先させる。つまり，6年担任と卒業生を主役に据える。

ウ　卒業式のあらゆる仕事は全職員であたり，6年生担任は，最後の最後まで6年生の子どもと共に授業をとおして，学級会活動をとおして有終の美を飾るようにする。

エ　卒業式の大筋は変えないで，方法は，毎年卒業生の考えと6年担任の創意を大切にするために，アイディアを出し合って変化を持たせて実施する。

(2) 卒業式にいたるまでの活動組織



卒業関係プロジェクトのメンバーは，心の豊かな子を育てるプロジェクトチームの人たちで構成した。このプロジェクトは「卒業式についての基本的な考え」を踏まえて，卒業式の大筋である基本計画（目標，活動内容，活動組織，係分担，日程）を作成し，3学期の始業式の日に計画案を掲示した。この計画案は，職員会において細かく検討され，細部計画は活動組織に従い，学年や研究部が担当して作成することになった。

各学年，研究部は学年会や研究部会で分担された仕事の細案づくりや準備をして，それぞれアイディアを出し合い感銘深い卒業式になるよう工夫している。こうして作成された細案は，2月の運営委員会，職員会を経て実施している。

(3) 評　価

いままでの学校評価は，どちらかと言えば評価のための評価に終わることが多い。本来は子どものためであり，教師自身の教育の営みのために行うのである。その方法は，計画，実施，評価のサイクルをとおして行うことが効率的である。本校では，年間7月，12月に殆んどの教育活動について実施している。そのひとつを次に掲げる。

足利市立大橋小学校の学校評価とまとめ

～ みんなで創る大橋小 ～

昭和56. 7 実施
昭和56. 8 まとめ

A　教育系列

評価者　評定欄　個人……人数　全体……%

大項目	中項目	小項目		評価の観点	個人	全体
教育目標（みんなで創る大橋小）	1. 目標達成の方策	1. 大橋小の子供像，学校像を具現する四活動について	計画の段階	1. 四つの活動の基本構想が大変むずかしく，理解できていない。	0	(0)
				2. 昨年に引き続いて構想はわかるが，職員のアイデアが盛り込まれていない。	0	(0)
				3. 1月～3月の期間に四活動のプロジェクトチームが参画したので具体的実践事項ができて職員の創意が組み込まれている。	14	(63)
				4. 3.で四つのプロジェクトで細案を立てて，それを全体で実践していけるような計画であり，実践化の体制ができた。	5	(23)
					無 3	(14)
			実施の段階	1. 四活動の構想ができたが，ほとんど実践されない計画だおれである。	0	(0)
				2. 四活動の構想はあるが，共通理解不足で大橋小のカラーがなかなか実現しない。	1	(5)
				3. 四活動の実践事項が明確で授業や学校行事の中で実践化され，大橋小のカラーが育ってきた。	15	(68)
				4. 3.で日常教育活動が軌道に乗り，学校全体として調和がとれてきて，子どもたちがいろいろな体験をとおして，学級，学校でのよろこびや成功感，満足感を表す機会が多くなってきた。（生き生きしてきた。）	4	(18)
					無 2	(9)

教育目標（みんなで創る大橋小）	2 豊かな心情・連帯感を育てる活動		改善事項	●横の連絡が不足していたようである，チーフ会議が必要。 ●細かい点での共通理解にかけることがある（ブロックで決めたことが実施の時に変わってしまった　変えた理由やどう変えたか全体に知らせて欲しい）	〃	
		(1) 卒業式について	計画の段階	1. 係だけの計画で，立案の段階で職員の意見やアイデアがほとんど反映しない計画であった。 2. 卒業式関係の一連の計画作成に参画したが計画に無理があった。 3. 1月中にプロジェクトチームを組んで，それぞれ先の見通しをもって計画ができアイデアも盛り込まれた。 4. 各プロジェクトチームの計画案が統合され，全職員がそれぞれ分担して参画できる計画案であった。	0 0 9 8 無5	(0) (0) (41) (36) (23)
			実施の段階	1. 計画と実践がかみあわないで大変困った。 2. 計画案が全職員に理解できないため，大橋小のカラーが出し切れず「子供も教師も」盛り上がりに欠けた。 3. プロジェクトチームを組んで計画ができ，卒業式の内容も（既設校に比して）変化と創意が加わっていた。 4. 3.で卒業生に最上の心を配ったので感動場面もあって，卒業生担任に対しても全職員で協力できた。	0 1 9 7 無5	(0) (5) (41) (31) (23)
			改善事項	●卒業式のあとかたづけがまだできていない。（花のアーチが資料室に投げだされたまま）		

6. まとめと今後の課題

山上山あり，山また山。波間道なし。路縦横。　開校以来の大橋小創りにふさわしい言葉ではなかろうか。全教職員を挙げて取り組んできた本校教育目標の具現化を目指した試みの一端を述べてきたわけであるが，まだまだ緒についたばかりである。教職員の創意と工夫を結集しながら，子どもたちのための，大橋小創りに努力していかなければならない。

今課の課題

(1) 分掌内容の明確化をはかり，下位組織を改善する。

(2) 指導効率をより高めるために，四活動推進のための手引きの作成。

(3) プロジェクト会議の能率的運営の工夫。

(4) 教職員，児童個々への浸透を推進するための学年・学級経営の工夫。

(5) 児童，学校の実態をふまえたプロジェクト別の具体策作成の工夫。